

語りの中で写真を見せたり、現代に置き換えて風習を解説したりしているそうです。自分たちが住んでいるまちの身近な昔話に、子どもたちは身を乗り出して聞き入ります。

民話の朗読を聞いた児童一人ひとりからのお礼の手紙や、分厚い一冊の冊子が贈られてきたこともあります。

「野田市の魅力は、風情のあるまちの佇まいだけでは

なく、穏やかで人情味がある住民そのものだと思っています。」と話す三輪田さん。「穏やかな人たちによって作られてきたまちの歴史だからこそ、民話が温かいんですね」とも。

これからもこのまちの民話の朗読を通して、多くの方にふるさとの歴史を発見していただきたいと思います。三輪田さんの読み聞かせは続いています。



民話「タカナの名前はご紋から」

関宿城埋門の屋根などに彫られているのは、江戸時代の藩主久世家の家紋「鷹の羽」です。この家紋が地区特産の高菜の名前の由来になったお話。



民話「仲良し橋」

土木学者船橋随庵が、藩主久世広周の命により農業用水路として工事の指揮を執り完成させた「関宿落堀」は、関宿台町と関宿元町との境を横断するように流れています。この関宿落堀にかけられた橋のひとつに、「中井橋」があります。かつて、橋の両側の住民同士でいさかいが起こりましたが、その後、仲直りをしたことから「仲良し橋」と呼ばれるようになり、これが転じて「中井橋」になったという話が残っています。



平成3年に架け替えられた中井橋は関宿小学校の西側に

